

〔第11回〕

NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

栄養依存的な腸管上皮恒常性と寿命の制御 ～ショウジョウバエからの知見～

組織恒常性研究プロジェクトチーム

赤木 一考 プロジェクトリーダー

2016年7月12日(火) 16時30分
第1研究棟2階大会議室

近年、細胞レベル、組織レベルでの老化が組織恒常性の破綻を引き起こし、個体老化に繋がること明らかになってきた。一方で、栄養制限は様々な生物での寿命延長効果が知られているにも関わらず、その各組織レベルでの影響については、組織ごとにおける恒常性維持のメカニズムと同様に不明な部分が多い。

当プロジェクトチームでは、栄養条件の変化が、腸管上皮恒常性と寿命に与える影響について分子レベルで解明することを目的としている。近年、腸管上皮恒常性と様々な加齢性疾患との関連が明らかにされてきているが、その詳しいメカニズムは分かっていない。その原因の一つに、腸疾患と寿命の関連性を研究する動物モデルが不足していることが挙げられる。一方で、強力な遺伝学的ツール、比較的短い寿命、シンプルな腸幹細胞系譜を持つショウジョウバエが、それらを研究する優秀なモデルとして確立されつつある。本研究発表会では、腸管上皮恒常性と老化の研究にショウジョウバエを用いる利点を紹介するとともに、今後の展望について議論したい。

座長：多田 敬典